２０１２／０２／２６　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：愛する主にお会いする１
聖書箇所：ローマ人への手紙　１３章１１－１４節

ローマ人への手紙１３章１１－１２節
「あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。:12 夜はふけて、昼が近づきました。…」

今日、私たちはこのみことばからパウロが語る大切なメッセージを見て行きます。パウロはこう言います。「私があなたたちに教えたことを直ちに実践しなさい。」と。１１節の初めを見ると、新改訳聖書では**「…このように行ないなさい。」**と最初の文章は閉じられていますが、実は、この１１節の初めは、「そして」という接続詞と「これ」という代名詞がつながって出て来ます。それが最初に出てくることばなのです。そして、この「これ」は間違いなく前の文を指している訳です。８節から１０節で学んだように「隣人をあなた自身のように愛しなさい」と、パウロはそのことに話を向けるのかもしれませんが、私たちがこの１２章に入ってからずっと学んで来たことは何だったのか、思い出していただきたいのです。

パウロは１２章に入ってから、神の恵みによって救われた私たちは感謝をもって生きていく、私たちは感謝をどのように現わして行くのかという具体的な歩みをパウロによって教えられて来ました。神に感謝する人はこのように生きて行きなさい、このように人々に接して行きなさい、たとえ、それがあなたの敵であってもこのように接しなさいと「生き方」を彼は教えてくれました。ですから、どちらかと言うと、この８節からのみことばだけでなく、１２章の初めからこの１３章１０節までに語ったその具体的な生き方というもの、それをパウロは「直ちに実践しなさい、直ちにそれを行なっていきなさい」とそのように命じるのです。

今、新改訳聖書を見て**「…このように行ないなさい。」**と記してあると話ししましたが、口語訳聖書では「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、このことを励まねばならない。」とあり、文語訳では「なんぢら時を知る故に、いよいよ然(しか)なすべし。今は眠りより覚むべき時なり。初めて信ぜし時よりも今は我らの救い近ければなり。」とあります。このように為して行きなさいと、ギリシャ語にないことばを加えているのです。先ほども話したように、ギリシャ語には具体的にそのことばは出ていないのです。「このように行ないなさい」とか「このように生きて行きなさい」とは書かれていないのです。でも、どの訳にもこのことばを加えているのです。それはそのことがパウロが言いたかったことだからです。パウロが言いたいことは、どの時代であろうとだれであろうと、このメッセージを聞いた一人ひとりに対して、そして特に、救いに与った一人ひとりに対して、あなたが救われたことを感謝しているのなら、「今からこのように生きて行きなさい。直ちに、私の教えていることを実践していきなさい。」と、そのことをパウロは教えるのです。

また同時に、この１１節のみことばを見て行くと、このメッセージを受け取った一人ひとりに実践の早急性をパウロが命じていることは明らかです。**「あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。」**と、眠りから目を覚ましなさい、今すぐそれをしなければならないとパウロは教えるのです。今日と次回で私たちは二つのことを見て行きます。一つは「今から直ぐに教えを実践しなさい」というその理由について、どうして私たちはその教えをすぐに実践する必要があるのか、そのことを今から見て行きます。次回は、どのようにそれを実践していくのか、その方法について見て行きます。

《パウロの教え　：　私の教えていることを直ちに実践しなさい》
Ａ．その理由　：　どうして教えをすぐに実践する必要があるのか？
⇒救いが近いから、

まず、どうして直ちにこの教えを実践して行くことが必要なのか、その理由です。結論を言うと、救いの日が近いからです。だから、あなたたちはこの教えを直ちに実践することが必要だと言うのです。この「救い、救いの日、救いのとき」といろいろな表現が出て来ますが、これは主に逆らう人々にとっては「さばきのとき」「さばきの日」です。また、私たちイエス・キリストを信じる者にとっては、「救いのとき、救いの日」です。そのことを今教えてくれるパウロですが、そのメッセージをしっかりと見て行きましょう。

１．「救いが近い」と断言できる二つの理由

パウロはこの「救いの日が近い」ことを断言しています。その理由を二つ上げています。

１）時代の様子から分かる：１１節に**「あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、」**とあります。「時を読む、時代を読む」ことをパウロは言います。恐らく皆さんも、終末時計というのを聞かれたことがあると思います。隔月に発刊されるアメリカの雑誌ですが、原子力科学者団体が発行しているのですが、その表紙に終末時計があって、核戦争などで地球が滅亡する日までの時間を象徴的に表わしています。あと何分すれば世界の終わりが来ると。この雑誌が発刊されたのは１９４７年です。ノーベル賞を受賞した者たちや科学者たちが委員会を築いて協議をした上で、あと何分と決めるわけです。２０１０年は６分でした。それが今年になって１分縮まったとニュースで報道されています。つまり、滅びる日が近づいているのです。科学者たちの話を聞かなくても、一般の人たちもそのことを感じています。今の世の中の様々な出来事を見て終わりが近いと思う人はたくさんいます。

私たちクリスチャンはどうでしょう？私たちは特に「時を読む」ことが必要です。なぜなら、神の約束が記されている聖書を知っているからです。私たちは聖書のみことばを見るときに、今がどんな時代か、今私たちはどんな時代に生きているのか、そのことをしっかりと見分けることができます。パウロは**「今がどのような時か知っている」**と言います。つまり、彼が言いたいことは、この時代がどんな時代なのか、今、自分たちがどんな時代に住んでいるのかを見分けることができるということです。

主ご自身も見分けない人を非難しておられます。覚えていますか？マタイの福音書１６章３節に**「朝には、『朝焼けでどんよりしているから、きょうは荒れ模様だ。』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか。」**と書かれています。空を見ると今日の天候が分かる、それなら、どうして目を開いて、いったい私たちの周りに何が起こっているのか、今、私たちがどんな時代に生きているのか、そのことを見分けることをしないのかと、イエスは非難なさったのです。**「時のしるしを見分ける」**という、この**「見分ける」**とは「評価する」ということばです。何が起こっているのか正しく評価しなさいと言うのです。

信仰者の皆さん、間違いなく皆さんは今「終わりのとき」に住んでいることを確信しておられると私は確信しています。そうであって欲しいと思います。なぜなら、そのようにみことばが教えているからです。聖書が教えた預言が確実に成就しています。

◎そのときが近い証拠：

ａ）預言の成就

・**神よりも快楽を愛する**＝Ⅱテモテ３：４－５**「裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、:5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。」**、このような時代に今、私たちは生きています。神を求めるどころか人々は益々自分の快楽のままに生きようとしています。

・**罪から離れようとしない**＝Ⅱテモテ３：１－７**「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。:2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、:3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、:4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、:5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。:6 こういう人々の中には、家々にはいり込み、愚かな女たちをたぶらかしている者がいます。その女たちは、さまざまの情欲に引き回されて罪に罪を重ね、:7 いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない者たちです。」**

・**キリストを拒む**＝Ⅰヨハネ４：３**「イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」**、ヨハネは終わりの時代になると人々はキリストを拒むと言います。イエスを受け入れようとしないのです。心がますます頑なになって行くのです。

・**キリストの再臨を否定する**＝Ⅱペテロ３：３－４**「まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、:4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」**

・**人々は信仰を否定する**＝Ⅰテモテ４：１－２**「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。:2 それは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、」**

・**人々は正しい教理を否定する**＝Ⅱテモテ４：３－４**「というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために**

寄せ集め、:4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。」、教理などどうでもいい愛の方が大切だとして、人々は健全な教えから離れて行ってしまうと言います。

ですから、少なくとも、このように見たときに「世の終わり」にはどのような兆候があるのか、どのようなしるしがあるのか？みことばは確かにそのことを教えています。そして、皆さんが目を開いてご覧になれば、私たちはそのような時代に生きていることが分かります。確実に、私たちは「終わりの時代」という聖書が教える時代に生きていることは間違いありません。

ｂ）世界情勢

また、聖書の預言を見なくても今の世界情勢を見たときに、イランのアフマディーネジャード大統領がイスラエルをこの地図から抹殺すべきだと言ったのはもう６年以上前になります。ご存じですか？つい数日前、ＣＮＮを初めいろいろなケーブルニュースの大きな見出しには、いつイスラエルがイランの核施設を攻撃するのかというニュースが出ています。数日前のことです。今もうそのような時代に私たちは生きているのです。イランがイスラエルを核攻撃するか、その前にイスラエルがイランを攻撃するか、そんな時代に私たちはいるのです。聖書を知っている皆さんなら、間違いなく、聖書が教えるように、私たちはその「終わりのとき」が近いことを知っています。私たちはしっかりと「時」を見分けなければいけないし、今私たちがどのような時代に生きているのか、そのことを見るなら、確かに、パウロが言うように「救いが近い。その日が近い。」とその確信を私たちは持つことができるはずです。皆さんがその確信を持っておられることを期待します。

時代の様子から私たちは救いの日が近いと見ることができるのです。

２）時間の経過から分かる

二つ目に、パウロは時間の経過からそれを知ることができると言います。１１節の後半に**「というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。」**とあります。確実なことは、一日一日と私たちはその日に近づいているということです。昨日より今日は一日近づいたのです。パウロの時代から見るなら、もう二千年以上経ったのです。私たちがこうして約束を見るときに、少なくとも、パウロが語っていた時代よりも今の時代の方が終わりの時に近いと悟ることができます。ですから、「救いの日が近い。救いの時が近い。さばきの日が近い。」とパウロは言いました。そして、その証拠は私たちの周りに溢れています。

２．「近づいている救い」の意味

さて、パウロが語った「救いの日」、近づいているといったこの「救い」、パウロは何のことを言わんとしているのでしょう？実は、１１節と１２節で三つのことばを使ってその説明をしています。

１）「時」：１１節**「今がどのような時か知っているのですから、」**。

２）「救い」：１１節**「今は救いが私たちにもっと近づいているからです。」**。

３）「昼」：１２節**「夜はふけて、昼が近づきました。」**。

この三つの名詞を見るときに私たちは、どんな時が近づいているのか、パウロが言った「救いが近い」という「救い」とはどのようなものか、それを見ることができます。それを今から見て行きましょう。

１）「時」

パウロが語っている「時」とは何のことでしょう？「時」ということばをギリシャ語の辞典で見ると、「機会、時代、時節、シーズン」です。今、何のシーズン？梅のシーズン、桜のシーズン、そのようなシーズンです。また、このような意味もあります。それは「定められた時」ということです。つまり、この「時」というのは、神がすべてのことをご自分の考えに基づいて、ご自分のみこころに基づいて定め、それを行なっているということです。神はすべてのことを定めて、その定めたように行なっておられるのです。物事が偶然に起こっているのではありません。主はこのように語っておられます。マルコ１３：３３**「気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだか、あなたがたは知らないからです。」**と。また、ローマ５：６では主イエス・キリストの十字架の死に関してパウロがこのように語っています。**「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。」**と、イエスの十字架は成行きでそうなったのではありません。「定められた時」と、神はすべてのことを定めておられるのです。

思い出していただきたいのですが、イエス・キリストが十字架で亡くなられ、そして、三日目によみがえられて後、４０日間この地上におられて、ご自分が肉体をもってよみがえったことを明らかにされました。そして、その主が**「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」**（使徒１：５）と言われました。まちろん、この後すぐに実際にそのことが起こりました。ペンテコステです。そのときに弟子たちはこのように言います。１：６**「主よ。今こそ、イ**

スラエルのために国を再興してくださるのですか。」と、我々のために国を作ってくださるのですか？と言うのです。なぜ、弟子たちがこのようなことを言ったのか、旧約聖書を見ると、聖霊が下って来ることと、イスラエルの国が再興されることが並んで使われているところがあるからです。ですから、弟子たちはその時がもう来たのだと思ったのです。そこでそのような質問をしたのです。そのときにイエスが弟子たちにどのようなことを言われたのか思い出してください。使徒の働き１：７**「イエスは言われた。いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。」**、心配しなくて良い、すべてのことは父なる神がちゃんと定めておられる、父なる神がご自分の権威をもって決めておられると言うのです。

皆さん、お気付きになりますか？この使徒の働き１章７節で、イエスはこの御国に関して否定していません。「今、私たちのために国を再興してくださるのですか？」と弟子たちが言ったとき、イエスはそれを否定しなかったのです。必ず、イエスを王とした王国が建てられるのです。私たちは主イエス・キリストとともにその王国を治めるとみことばは私たちに教えます。でも、今がその時ではない、その時は父なる神がご自分の権威に基づいてそれを定めておられると言うのです。

今日のテキストに戻って、この「時」とは、神がすべてのことをご自分の計画に基づいて定めておられるというその「時」のことです。この「時」についてパウロはまず「偶然ではない。神が決めておられる。」と言います。どのような「時」を決めておられるのでしょう？次を見てください。

２）「救い」

「神の救い」のことです。１１節に**「私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。」**とあります。ある方は「いったい、この救いは何のことだろう？」と思われるでしょう。なぜなら、「救い」ということばを見て私たちがすぐに考えることは、罪が赦されて永遠のいのちをいただくという、その救いのことだからです。ここで言われている「救い」とは、そのことではありません。罪が赦されて永遠のいのちをいただくということを言っているのではないのです。説明します。

私たちは神から救いをいただいた者です。救いをいただいた私たちクリスチャンとはどのような者なのか？次の三つの約束をいただいた者です。

（１）義とされた者

神が義と宣言してくださったのです。神があなたのことを「聖い」と宣言してくださったのです。だから、聖い神の前に立つことが赦されたのです。このローマ３：２２でパウロはこのように言いました。**「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。」**、人種も国籍も身分も全く関係ない、イエス・キリストを信じるすべての者を神は義としてくださる、神が「聖い」と宣言してくださる、そのことです。同じ３：２４には**「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」**とあり、何かをしたからではない、神の一方的なご愛によって、信じるあなたを神は義としてくださったのです。ですから、私たちクリスチャンは神によって義とされた者です。この義が私たちに与えられているから、私たちはクリスチャンなのです

（２）キリストに似た者へと変えられ続ける者

主イエス・キリストに似た者へと変えられ続ける者、それがクリスチャンです。ピリピ２：１２にこのようなみことばがあります。**「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。」**と。先ほども話したように、このようなみことばを聞くと多くの皆さんは「自分の救いを達成するとはどういうことなのだろう？一生懸命努力しなければ私の罪は赦されないのか、天国に行けないのか？」と思われるかもしれませんが、そのようなことを言っているのではありません。確かに、「救い」ということばは使われています。

もう一つ、Ｉペテロ２：２**「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」**と、このメッセージの対象はクリスチャンたちです。ペテロは**「みことばの乳を慕い求めなさい。それによって…」**と言います。つまり、みことばによって成長し、その後**「救いを得るためです。」**と書かれています。ですから、明らかに、私たちはこうしてみことばを見たときに、神が罪を赦してくださり、救ってくださり、永遠のいのちを与えてくださり、義と認めてくださったという「救い」と、その後の「救い」が存在しているということが分かります。ですから、今見たＩペテロ２：２やピリピ２：１２に記されている「救い」とは「霊的成長」のことです。それも実は、「救い」と呼んでいるのです。イエスを信じた者たちがその日から成長を始めるのです。それも救いなのです。

（３）罪から解放される約束をいただいた者

この「罪からの解放」ということに関して二つのことを覚えてください。

ａ）罪のさばきからの解放

神は、神に逆らうこの世にさばきをくだされるということを警告しておられます。ローマ５章の中ですでに学んで来ましたが、思い出してください。５：９－１０**「ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」**、ここにも「救い」ということばが出て来ました。９節には**「救われるのは、」**とあり、１０節には**「救いにあずかるのは、」**とあります。どちらも未来形を使っています。だから、パウロはこの「救い」はこれから先のこと、未来のことだと言うのです。

いったい何からの救いなのでしょう？そこまで説明しています。９節**「彼によって神の怒りから救われるのは、」**と言います。**「怒り」**とは、主イエス・キリストのこの救いを拒み、この救いを受け入れなかった者たちへの最後のさばきのことです。そのようなさばきがあることは、パウロが様々なところで教えています。ローマ２：５**「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」**、また、Ⅰテサロニケ１：１０には**「また、神が死者の中からよみがえらせなさった御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。」**とあり、Ⅱテサロニケ１：６－９には**「つまり、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、:7 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現われるときに起こります。:8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。:9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。」**と記されています。

みことばは明確に、神に逆らう者たちに永遠の刑罰、永遠のさばき、地獄が待っていることを教えています。そして、このような約束を私たち信仰者に与えてくれたのです。「あなたはそのさばきに遭うことはない、あなたはこの神の怒りから救われる。」と。なぜですか？罪が赦されているからです。主によってすべての罪が赦されたゆえに、私たちはこの警告されている最後のさばきに会うことがないのです。私たちはそこから救われているのです。確かに、罪のさばきから私たちは解放される、その約束をいただいています。

ｂ）罪からの完全な解放　：　キリスト者を罪から完全に解放し、完全な勝利を得るとき

ローマ人への手紙８章２３節でパウロは、**「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にしていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」**と言っています。パウロは「たましいの贖われること」ではなく**「からだの贖われること」**と言いました。つまり、パウロがここで言っていることは、私たちがよく口にする「栄化」ということです。神のご計画の最終的目的のその成就です。私たちクリスチャンが栄光あるからだへと変えられるときのことです。罪から完全に解放されるときです。そのときは、私たちはもう罪を犯すことも、主を悲しませることも完全になくなる喜びの日です。ヨハネはそのことをこのように言います。Ⅰヨハネ３：２**「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」**と、私たちはそのときに栄光のからだをいただくのです。このような約束を主は私たちにくださったのです。この罪のからだを脱ぎ捨てて、栄光のからだをいただくのです。だから、罪からの完全な解放なのです。私たちはもう罪とは無縁なのです。罪を犯すことがなくなる、その約束を私たちは主からいただいています。

「救い」は「さばき」からの救いだけでなく、私たちはこの罪のからだからも完全に救われて、罪を犯すことのない栄光のからだをいただくのです。

３）「昼」

もう一つ、三つ目に見るのは「昼」ということばです。今日のテキストに戻って、１３：１２ａで、パウロは何を言わんとしているのか、これは「神のさばき」のことです。パウロは迫り来るさばきの日について**「夜はふけて、昼が近づきました。」**と言っているのです。この「夜」とは何を意味するのでしょう？今のこの悪に溢れた時代のことです。この世のことです。不品行、神に対する反抗的な態度、罪を愛するこの世の中、そのことを「夜」と呼ぶのです。

では、「昼」とは何でしょう？これとは全く相反するものです。悪に対する最終的勝利のことです。ちょうど、夜がだんだん明けていくその様子を思い描いてください。だんだん明るくなっていく、この罪が、この世の中が神によってさばかれて、そして、神の義をもって、その光をもって神がすべてを治めるその様子です。この日のことを聖書は「主の日」と呼びます。トーマス・シュレイナーという神学者は、この「昼」と訳されているギリシャ語に関して次のように言っています。「このことばは終末的主の日である。」と。確かに、ここで「昼」と使われているギリシャ語は、新約聖書の中でⅠテサロニケ５：２、Ⅱテサロニケ２：２、また、Ⅱペテロ３：１０を見るときに、そこに「主」ということばを付けて「主の日」と訳しています。

Ⅰテサロニケ５：２＝「主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。」

Ⅱテサロニケ２：２＝「霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。」

Ⅱペテロ３：１０＝「しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。」

では、この「主の日」とはいったい何でしょう？「主の日」とは「神のさばき」のことです。神のさばきが下るときです。キリストの空中携挙から最後のそのさばきのときまでを指します。それを「主の日」と呼ぶのです。神からの大変なさばきが下ることがみことばに約束されています。

イザヤ書１３：６＝「泣きわめけ。主の日は近い。全能者から破壊が来る。」

ヨエル書１：１５＝「ああ、その日よ。主の日は近い。全能者からの破壊のように、その日が来る。」

ゼパニヤ書１：１４－１８＝「主の大いなる日は近い。それは近く、非常に早く来る。聞け。主の日を。勇士も激しく叫ぶ。:15 その日は激しい怒りの日、苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、やみと暗黒の日、雲と暗やみの日、:16 角笛とときの声の日、城壁のある町々と高い四隅の塔が襲われる日だ。:17 わたしは人を苦しめ、人々は盲人のように歩く。彼らは主に罪を犯したからだ。彼らの血はちりのように振りまかれ、彼らのはらわたは糞のようにまき散らされる。:18 彼らの銀も、彼らの金も、主の激しい怒りの日に彼らを救い出せない。そのねたみの火で、全土は焼き払われる。主は実に、地に住むすべての者をたちまち滅ぼし尽くす。」

非常に恐ろしいさばきが約束されています。神のさばきのときがやって来ると言います。**「夜はふけて、昼が近づきました。」**と、そのさばきが近づいているとパウロは教えるのです。

今日、私たちが最初から見ていることは、パウロが「主の教えを直ちに実践しなさい」と命じたことです。パウロがなぜ私たちにそのことを命じたのか、その理由を見ているのです。パウロは「救いは近づいているからだ」と言いました。それは、神がご自身のみこころによって定められた「さばきの時」であり、同時に、キリスト者にとっては最終的救いの時です。主は罪に対してさばきを下し、ご自分の民を完全な者としてくださるのです。「その日が近い、その時が近い」と言うのです。だから「今すぐにわたしの教えたことを実践するように」と、パウロはそのように人々に命じるのです。

「救いが近い」と言ったパウロ、「主の日が近い」と言ったパウロ、今、私たちが覚えなければいけないことは、信仰者の皆さん、私たちが信じようと信じまいとその日は確実に近づいているということです。問題は次のことです。私たちが今日をどのように生きて行くかということです。そこにすべてがかかっているのです。人々はこのように言います。「いったい、その主の日はいつ訪れるのか？」と。ちょうど、ペテロの手紙第二の中でペテロがそのことを言っています。３：３－４**「まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、:4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」**、「何も変わっていないではないか、主の日なんて、主が来られるなんて、そんなことは起こっていないではないか。そんなことを信じること自体愚かだ。」と、終わりの時代になれば、人々は益々そのようになって行くと言うのです。

確かに、ペテロやパウロが教えたように、その日は近い、でも、その「主の日」は確かに、彼らの時代から約二千年経ってもまだ訪れていません。それは神の約束が間違っていたということになるのでしょうか？神が嘘をつかれたのでしょうか？違いますね。ペテロがそのことを私たちに教えてくれています。なぜ、神は今すぐにさばきを下さないのか？ペテロのことばを借りるなら、Ⅱペテロ３：７－９

「しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。:8 しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。:9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対

して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」と、つまり、みことばが教えることは、神は今この瞬間にさばきを下すことができるけれども、それをなさらずに一人でも多くの人が救いに与るように、あなたの愛する者が救われるために、神は忍耐をもってその日を延ばしておられるのです。でも、確かにその日が来るのです。だから、パウロは言ったのです。**「あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。」**「目を覚ませ！」と。

私たちが覚えなければいけないことは、先ほどのペテロのみことばを見るなら、神は忍耐をもってひとりでも多くの人が悔い改めに進むように、救われるようにと待っているということです。その意味は必ずさばきが来るということを保証しています。イエス・キリストの救いを受け入れていなければ、その人はあなたのどんなに愛する人であったとしても、確実に永遠の地獄へと向かうのです。どんなに良い人であっても、どんなにすばらしい人であっても、この罪の赦しをいただいていなければ、彼らが向かっているのは間違いなく永遠の地獄です。

結論

私たち信仰者はそのことに目覚めなければいけないのです。私たちの周りを見たときに、どれ程多くの人たちがこの滅びに向かっていることか、私たちの愛する家族が、愛する友人たちが…。「目を覚ませ！」と言うのです、信仰者の皆さん。「目を覚ましなさい」と命じたパウロ、ここには二つの意味があります。

◎キリスト者へ　⇒　「目を覚ましなさい」というその意味

１．道徳的に聖くあること

この「眠り」とは道徳的に鈍くなってしまっている様子です。なぜなら、私たち信仰者も気を付けていなければ、罪を犯しているとその罪に対してだんだん無感覚になって来るからです。ちょうど、眠ったような状態です。だから、パウロは「目を覚ませ」と言うのです。どのような生き方をしてもいいのではないと言うのです。救いの日が近いのだから、イエスにお会いするときが近いのだから、私たちはしっかりと目を覚まして、いつ主にお会いしてもいいようにその備えをしていないといけない、罪から離れなければいけないと言うのです。

私たちは「また、次に片付ければいいや、明日片付ければいいや、」と言っていると、どんどん散らかって行きます。私たちの心の中では罪も同じです。「まぁ、これぐらいは…」と思っていると、それがどんどん大きくなってしまって、いつの間にか罪に対して無感覚になってしまいます。まさに、パウロが言っている「眠ったような状態」になってしまうのです。「目覚めなさい」、神の前に正しく歩みなさいと言うのです。あなたは救われた者にふさわしく生きていますか？

２．機会を無駄にしないこと

主は、ヨハネの福音書９：４で**「わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。」**と言われました。注意して見てください。イエスは**「わたしを遣わした方のわざを…」**行なうと言うのです。**「働くことのできない夜が来ます。」**と言います。イエスの場合は十字架がやって来ます。そして、非常に興味深いことは、この９：４を見ると、この主語は「わたし」になっていないことです。**「わたしたちは」**です。イエスは地上におられたときに、父なる神のみこころを行なって来られました。問題は私たちです。なぜなら、私たちはそのように生きる者たちだからです。そのように生きることを神から望まれている者たちなのです。我々はこの地上にいて、私たちの主がどんなにすばらしいお方であるかを人々に明らかにするために生きているのです。だから、私たちの生き方が大切なのです。私たちの言動が大切なのです。

どうすれば良いのか？私たちは次回そのことを見ます。しかし、少なくとも、パウロが私たちに教えてくれているのは「機会を逸してはいけない」ということです。「もっと主のために働いておけば…」というような後悔を残してはいけないと言うのです。「もっと主のために熱心であれば…」と、そのような後悔を残してはいけないと言うのです。「今、やりなさい！」と言うのです。「今しかそれができないのだから」、機会を無駄にしてはいけないと言うのです。確かに、「救いの日」は近いのです。私たちが主にお会いする日は近いのです。皆さん、この二つの質問をご自分に問い掛けてみてください。

適用

◎「救いの時」が近づいている今…、

１．私はいつも目を覚まして、神のみことばを日々実践しようとしているか？

「イエス」か「ノー」です。私は日々目を覚まして、今日、イエスにお会いしてもいいように、それはイエスが迎えに来てくださる、もしかすると「死」をもってかもしれません。いずれにしろ、今日が最後かもしれない。今日、私は目を覚まして、みことばを実践しているかどうか？「私は弱いのです。

やろうと思うけれどすぐに失敗するのです。」…と、それならそのことを告白すればいいのです。そして、またやり始めたらいいのです。また失敗したらまた告白してやり始める、私たちは何度でもそのようにして生きて行くのです。そのようにして生きることを主が私たちに求めておられるのです。

２．私は主にお会いする用意ができているか？

パウロはこのように言います。「あなたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。目を覚ましなさい。目を覚ませ！」と。そして、「主のために生き始めなさい。今日からわたしのみことばをしっかりと実践しなさい。」と。

ここにおられる愛する皆さんお一人ひとりが、その決心をもって今日この場を離れることを期待します。それが主が望んでおられることです。そのことをしっかりと心に留めて実践しようではないですか。なぜなら、これが主のみこころであり、このようにあなたが為すときに、主があなたを用いて主のみわざが成されて行くからです。そのためにあなたも私も生きているのです。だから、今日からそのことを始めることです。今日がその第一歩となることを心から願います。

《考えましょう》

１．直ちにみことばの実践を行なうことが、どうしてキリスト者には重要なのでしょう？
２．救いが完成するとき、私たちキリスト者はどうなるのでしょう？
３．キリスト者の目を覚ますには、どうすればよいでしょう？
４．キリスト者が眠ってしまうのはどうしてでしょう？